

第4回松山市地域振興構想策定懇話会 議事要旨

■日時・場所

日時： 令和6年12月26日(木) 13:30~15:35

場所： 松山市役所別館6階 第1委員会室

■出席者

別添「出席者名簿」のとおり

■議事内容

1. 開会

2. あいさつ(事務局)

3. 意見交換

松山市地域振興構想(案)について【資料1】【資料2】

●事務局より地域振興構想(案)について説明したところ、出席者より以下のとおり発言等があり、必要に応じて事務局が回答した。

・たからみがきという理念のもと、行動指針で一連の流れを示していると思うが、どこの地区でも使えるマニュアルのようなものを地域別編の直前に入れた方がわかりやすい。また、全体構想の基本理念の部分が2ページでは物足りない。

→この構想を分かりやすく伝えるための概要版としてパンフレットを作成し、各地域へ配布したいと考えている。基本理念部分のボリュームと合わせて検討したい。

・今回作成する構想やパンフレットと、フィールドミュージアムマップは、地域の宝を取り扱うという点では同じかと思うが、そのすみわけはどのようになっているのか。

→フィールドミュージアムマップは、寺社仏閣や遺跡などを紹介しているもの。今回の構想は、地域資源や特性を紹介し、それをいかしてどういうまちを目指していくか、まちづくりの将来をわかりやすく伝えるものである。

・基本理念で示す「たから」「みがき」という言葉が後半の地域別構想で出てこないのも、もう少し取り入れた方がいいのではないか。

・めざすまちの姿や方針はいいと思うが、島では人口も限られており、実際に実行に移すことは大変難しい。第一に考えるべきことは経済の自立で、島では農業が豊かになること。島の活性化のためにいろいろとやって、かえって農作業がおろそかになってしまっては本末転倒。

→今回の地域別構想は、懇話会や各地域でのヒアリング等での意見をもとに整理したもの。前回の懇話会でご意見をいただいた産業の振興は、柱の一点目に位置付けた。財源や人材も限られている中、コストの優先順位をどうつけていくかは非常に大切なことと受け止めている。今回示したビジョンをもとに、どの取組に注力していくかは、今後地域のみなさんと一緒に検討していきたい。

・風早の方針1の歴史や文化の継承については、地域全体として取組が進んでいると感じている。つながりの部分では、地域の人は愛着があり、地域の行事へ参加しているものの、大学生含めた若い人や地区に住み始めた人が参加しやすくなるように、その輪を広げていくことが大事。また、北条7地区全体の団結、一緒に何か盛り上げていくというところはまだ足りない部分だと思う。

・大学生としては、大学単位やゼミ単位で声がかかると参加しやすい。北条は駅から近いところに高校があるので、高校生にも声をかけやすいのではないかと思う。

・民家の空き地はあるが、公共の駐車場が無く、イベントの開催時や鹿島のピーク時に車を停めるところがないという問題もある。

・三津浜は平成26年に策定した活性化計画をベースに、少しずつバージョンアップしながら取組を進めてきた。今回の構想も、適宜状況に応じた見直しを行いながら進めていければいい。

・三津浜も駐車場は風早同様に問題があり、イベント時に駐車場として公有地を使いたいと相談しても断られたこともある。

- ・駐車場問題を含め、定性目標だけではなく、定量的な目標をたてることも必要なのではないか。
- 目標値を掲げると、その数値の達成に終始してしまうおそれがある。市の事業は事務事業シートを作成し、指標を掲げて振り返りを行い、ホームページ上に掲載しているため、それと連携をとる形でできればと考えている。なお、意見のとおり駐車場などハード面については具体的な目標がないと進まない面もある。その点は、市役所内部の他の部署と連携をとり、地域の方からそういったお声があるということを我々から共有したい。
- ・久谷のブランディングのところで、札所があること自体は、四国の他の地域と差はないが、お遍路発祥の伝承が残る地であることは、四国を見てもどこにもないことであるため、ここをブランディングとして推していけばいいのではないか。
- ・方針3の交流の部分で、学校を中核としたという表現がある。確かにそれも重要なことではあるが、それ以外の交流も大事なので、他にも読み取れる表現となるよう見直してほしい。
- 交流の部分は、指摘のとおり少し表現が限定し過ぎていたため、見直しをさせていただく。
- ・今後のまちづくりの素晴らしい方向性が示されたので、地域の仲間と共有し、小さなことからでも取り組んでいきたい。
- ・図表番号の後ろの括弧の必要性や出典の明記など、体裁について今一度確認すること。

実施計画及び作成の流れについて【資料3】

- 事務局より実施計画について説明したところ、出席者より以下のとおり発言等があり、必要に応じて事務局が回答した。
- ・実施計画は地域のどの団体が作成するのか。
- 久谷はまちづくり協議会、三津浜は三津浜地区にぎわい創出実行委員会のように、現在連携させていただいているまちづくり団体と一緒に計画を作成する。統一の様式を用いて公開することで、お互いの地域がどのような取組を行っているのかを比較して見やすくなる。
- ・取組の振り返りは、予定通り実施できたら○、一部実施できたら△、実施できなかったら×という評価にした方が分かりやすい。
- ・今後3年間の取組を記載するが、毎年振り返りを行うとある。2年目、3年目の振り返りはどのように行うイメージか。
- 1年目の取組を振り返った総括を踏まえて、向こう3年間の取組を協議しながら見直していくというイメージ。そのため、実施計画の振り返りの欄は、その1年間で行った取組の評価を行う。

構想の概要版(冊子)について【資料4】【資料5】

- 事務局より作成予定の構想の概要版の考え方や8・9月に実施した地域の魅力発信ワークショップの報告をしたところ、出席者より以下のとおり発言があった。
- ・まちづくりの主役は地域の人。そのため、学生の部分は、大学生ではなく地域の小中高の児童生徒の方にスポットライトを当てた方がいいのではないかなと思う。
- ・住んでいる地域のことをよく知らない人が多いということも聞く。学校で教材のように配布するといった子どもを通じて親世代が知っていくというのもいい流れだと思う。

4. その他・閉会

■会議風景

